キャラクター名

ゆず

プレイヤー名

ポジション	ホリック	**享年**	16
メインクラス	レクイエム	**暗示**	喪失
サブクラス	ステーシー	**寵愛点**	69

初期配置	花園
最大行動値	14

能力値	クラス	修正	合計
武装	3	0	3
変異	1	0	1
改造	0	3	3

記憶のカケラ	内容
歪んだ愛	『最初に感じた違和感は、ボクが思っていたよりも、相棒の反応が遅かったことだった。相棒は長年ボクとコンビを組んできた頼もしい存在で、ふだんなら指示を出す前に動いてくれるほどだった。ボクが「右に回り込め」と言うより早く、相棒はすでに右へ動いていた。だから、ボクが言葉を発するタイミングと、相棒が動き出すタイミングは、ほとんど同じだったはずだ。ところが、その日は違った。ボクが口を開いてから、相棒はようやく首を傾け、耳をこちらに向け、そしてワンテンポ遅れて前脚を踏み出した。その一瞬の遅れが、ボクの中に小さな棘のような違和感を残した。』
嵐	『小さな島に嵐は珍しくない。だが、その日の嵐は、島の歴史を知る者ほど口を閉ざすほどの異様さだった。空は昼過ぎから墨を流したように暗くなり、風は木々をなぎ倒すというより、引き裂くように吹き荒れた。波は防波堤を越え、港に並んだ漁船を次々と叩き壊していった。』
埋める	『大きな箱に可愛いリボンを結んで、綿菓に花が咲いていた保健室の花壇にこっそりと埋めたタイムカプセル。遥を送って小指を絡めて、戦争が終わったら掘り出すと、そう「彼女」と約束した。』
死後の生	『誰がYesにした。私はNoにした。口先だけなら何とでも言える！ 突然始まった特別プログラムから戦争を連想するなんて簡単で、気付いた時には冷たい体で銃を握っていた。』
難民	『何気無い日常は爆風の吹き飛ばしていった。戦争の前線となったこの村に親を失いた小娘の居場所などなく、国からの支援の元、貴女は学園島である企業財のペニンシュラ国立女子高等学校へと転校した。』
昆虫兵器	『戦場で虫が飛んでいるのを見たことがある。それらはあんなに大きくは無かったが恐るべき脅威だった。奴らは軍用アンデッドよりも民間人を優先して狙うのだ。』

未練				
対象	種類	狂気点		発狂時ペナルティ
たからもの	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
山茶花	友情	3	①②③④⑤	
ルシル	依存	3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	

マニューバ							
タイプ	損傷	名前	使用	タイミング	コスト	射程	効果
ポジション		加速する狂気		オート	なし	自身	バトルパートで発狂状態の未練がある際、攻撃判定+1
ポジション		業怒		ダメージ	効果参照	自身	自身が与えたダメージに対してのみ使用可。コストとして、あなたは任意の未練に狂気点1点を加える。ダメージ+2。
ポジション		修羅		ジャッジ	効果参照	自身	コストとして、あなたは任意の未練に狂気点1点を加える。支援3。
メインクラス		子守唄		オート	なし	自身	バトルパートで射撃攻撃マニューバの攻撃判定出目-1、コスト-1(最低1)
メインクラス		銃神		オート	なし	自身	射撃攻撃マニューバの攻撃判定において、出目+1してもよい
サブクラス		失敗作		オート	なし	自身	攻撃判定・砲撃判定の出目は全て+1される。ただし、バトルパートでの毎ラウンド終了時および戦闘終了時、あなたは任意のパーツを1つ損傷する。この損傷はコストとしては扱わない。
				オート			
頭		のうみそ		オート			2
頭		めだま		オート			1
頭		あご		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
頭		カンフー		オート			1
頭		アドレナリン		ジャッジ			1
頭		スコープ		ジャッジ	0	自身	支援。射撃・砲撃攻撃にのみ可。
				オート			
腕		こぶし		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		うで		ジャッジ	1	0	支援 1
腕		かた		アクション	4	自身	移動 1
腕		ショットガン		アクション	2	0〜1	射撃攻撃1+爆発、攻撃判定の出目+1
腕		アンデッドガン		アクション	3	1〜2	射撃攻撃1+爆発+全体攻撃
腕		人形		オート			たからもの
腕		エナジーチューブ		オート	なし	自身	最大行動値+2。装備箇所にダメージを受けた際、あなたは任意の基本パーツを追加で1つ損傷しなければならない。
				オート			
胴		せぼね		アクション	1	自身	次カウントで使うマニューバ 1 つのコスト-1
胴		はらわた		オート			
胴		はらわた		オート			
				オート			
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1